

築城郡

〔郡名考〕豊前 築城ツイキ

〔豊前國志四上〕築城郡名義

此郡の名義は、古き書に見あたらす、和名抄筑城郡、續紀築城郡の擬少領云々、築城といふ稱いづれの比より起りしもの歟、其證を傳へず、西は仲津郡、北は海、南は下毛、東は上毛の三郡に隣り、山海相對したる縣なり、奥山に城の郷と云岩山あり、絶景の地にて、日本圖にも出たり、

〔豊前志六〕築城郡郷四、村四十七、

重春云、天智天皇紀に、四年秋八月、遣達卒、憶禮福留達卒、四比福夫、築紫國、築大野及椽二城と云ふ事あり、是れ和名鈔に出でたる大野、椽木の二郷なる由は、下に云ふが如し、築城と云ふは、此の城を築きしに因る稱なるべし、

或記云、細川家より御引渡の高築城郡、二萬二百二十七石六斗六升七合一勺一才、

〔續日本紀十三〕天平十二年九月己酉、大將軍東人等言、豊前國略、築城郡擬少原脱、領外大初

位上佐伯豊石兵七十人來歸官軍、

〔大内家壁書〕從山口於御分國中行程日數事略

豊前國略、築城郡四日、請文十三日略

寛正二年六月廿九日

備中守 奉 秀明略

上毛郡

〔郡名考〕豊前 上毛カンツミケ

〔豊前國志四上〕上毛郡名義

此郡の名義は、景行帝此國に久しく坐々て、上膳米を納めし所故、此稱起りし事に思ふ、筑後風土記に、石井の君皇風に反條、豊前國上膳縣南山曲に終云々、亦御木川、御木村もあり、和名抄上毛郡、今上毛郡と訓、古より米の上品所なる故の稱と通ゆる也、